

大君主各親筆批准後即互換限不過一年待談
日期將現定條約繕二冊先由兩國全權大臣
書名蓋押今即互換各執一冊為據俾按照和
約開載之條施行安辦無礙矣

正月七日

昨日復至以答書案、茲彼方言一收也、
以方了終了了案、極、據、合、也、取、了、了、也、不

去年十月一聞知、貴國派欽差大臣前往長崎本
大臣想其必有權會同議定兩國界互市通信
三事、惟二位貴大臣首相會日、即言曰是未奉此
大權、是以本大臣繕條約之大畧、

貴國老中、請寬閱決定、今據二位貴大臣非一決言
曰、貴國款待、魯西亞國、於別諸國有大異、即
請二位貴大臣、堅定本月初四相會日所說之語曰
○大日本國將來若決定、開港口、准貿易、魯西亞國
即應首唱、開市、各別國以前、

○大日本國將來若決定、不論於何國互立、將通
 商之利益及諸項、另外之方便、別國一得、魯西
 亞國、因交界之故、自然同時亦應得矣、此外請
 無推延、決定即開市、以前本國人於貴港、備需
 物、應何如何處、酬價、盼望二位貴大臣、即必
 施、貴執政無推延、定互市者、是為累要、兩
 相有大益之事也、因相會時、費心、真待厚有
 誠心大禮、實所合、知理之人、又一回、理應酬謝、

御前大臣布帖廷

○アニワ港也張魯西亞勢と首長に使節が
 来るに書面文を和解

アニワ港也張魯西亞勢と首長に

我と日本政府と重き以役人と談判する魯西亞國と日本
 と境界と彼等以冬中今日本以役人唐古魯アニワ港に
 其地日本人何所為見分る事也以書簡于許に其國に
 我于許に其れ只以役人于他隨送し四方より町守に招待
 され其地人分る彼等支那取斗んを亦差る事也其れ
 今も其れ其れ也我于地に其れ其れ又其れ其れの内其れ
 其れ其れ

於日本魯西亞帝と全權
 アビユダントゲ子ラールエンフイーヤ
 アトミラール
 示

ウライマライ子 人

為以相形りてアニラ港に於て是れ人ニ日本政府内及人者之
りる也悉く可憐なり是れ根柢なり

曆数千八百零四年正月十四日 大正元年 丑三月廿八日 於長崎フレカット 船

ハルラス 号

○ 此の船は長崎に於て是れ人ニ日本政府内及人者之
りる也悉く可憐なり是れ根柢なり